

公的統計におけるオープンデータの活用方策：API機能及びGIS機能

独立行政法人統計センター 西村 正貴

1. 概要

政府統計の結果については、従来から政府統計の総合窓口（e-Stat）を通じ広く公開してきたところであるが、政府全体のオープンデータへの取組みをリードする総務省として政府統計の情報提供の高度化を目指し、総務省統計局と独立行政法人統計センターが協力してAPI機能及びGIS機能を開発、平成25年度より試行運用を行っている。

2. 機能の説明

(1) API機能

政府統計の総合窓口（e-Stat）に、新たにAPI（Application Programming Interface）を付加するとともに、蓄積された統計データを機械判読可能な形式（XML、JSON）で出力する機能を提供するもので、平成25年6月より総務省統計局所管の統計調査を対象に試行運用を行っている。

API機能を活用することにより、利用者の情報システムへの e-Stat の統計データの自動的な反映やユーザー保有のデータやオープンデータ等と連動させた高度な統計データの分析などが可能となる。

(2) GIS機能

政府統計の総合窓口（e-Stat）のGIS機能を強化し、ユーザー保有のデータやオープンデータ等を取り込み分析する機能や任意に指定したエリアにおける統計情報を表示する機能などを提供するもので、平成25年10月より試行運用を行っている。

国勢調査などの小地域及び地域メッシュの統計データと他のデータを組み合わせて地図上に表示することにより、防災や都市計画などの公的分野による活用だけでなく商圏分析などマーケティング等への活用が期待される。

3. 今後の予定

提供データの拡充及び機能の向上を図り、平成26年度中に本格運用を開始する予定。